

氏 名	三浦 章博
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6344 号
学位授与の日付	2021 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	The prognostic impact of sarcopenia on elderly patients undergoing pulmonary resection for non-small cell lung cancer (非小細胞肺癌に対し肺切除手術を行った高齢者におけるサルコペニアが予後に与える影響の検討)
論文審査委員	教授 光延文裕      教授 森松博史      教授 木浦勝行

#### 学位論文内容の要旨

高齢者は基礎疾患を有することが多いため、周術期リスクを十分に評価し合併症を軽減することが肝要である。サルコペニアは筋肉量の低下を示す指標として近年注目され、術後合併症や予後との関連が検討されているが、高齢者における検討は少ない。本研究では当院で高齢者（65 歳以上）に対して行われた肺癌根治手術のデータをもとに後方視的に術前サルコペニアの有無と予後の関連を検討した。対象となった 259 名のうち 179 名がサルコペニアと診断された。サルコペニア自体は予後には関連を認めなかった ( $p = 0.541$ ) が、周術期合併症は多い傾向があることが示唆された ( $p = 0.0521$ )。多変量解析の結果、再発を除いた患者において手術 1 年後の筋肉量の低下が術前サルコペニアを伴う患者の唯一の予後不良因子として同定された ( $p = 0.0219$ )。サルコペニアは予後不良因子ではなかったものの、長期予後を検討した場合、術後の筋肉量の維持が重要である可能性が示唆された。これまでの周術期管理は術前から退院までに重点を置いたものであったが、高齢者に対しては長期的な筋肉量の維持などを目標とした周術期プランニングが今後重要となることが考えられた。

#### 論文審査結果の要旨

高齢者は基礎疾患を有することが多いため、周術期リスクを十分に評価し合併症を軽減することが肝要である。サルコペニアは筋肉量の低下を示す指標として近年注目され、術後合併症や予後との関連が検討されているが、高齢者における検討は少ない。

本研究では、高齢者（65 歳以上）に対して行われた肺癌根治手術のデータをもとに後方視的に術前サルコペニアの有無と予後の関連を検討した。術前サルコペニアは予後不良因子ではなかったものの、長期予後を検討した場合、手術 1 年後の筋肉量の低下が術前サルコペニアを伴う患者の唯一の予後不良因子として同定され、術後の筋肉量の維持が重要である可能性が示唆された。

委員から、術前サルコペニアが予後不良因子ではなかったことについての考察を求められたが、本研究者は、研究経緯に基づいて回答するとともに、補足説明を行った。

本研究は、高齢者の周術期プランニングについて、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。